



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

2022年度 第2四半期 決算説明会資料

2022年11月8日
株式会社UACJ



上期 前年同期比**増収**、棚卸資産影響前経常利益**増益 139億円**(前年同期比+7億円)
22年度通期業績見通しについても**増収**、棚卸影響前経常利益**増益 235億円**

1

■ 2022年度 上期 総括

- ✓ 上期については社内の計画に対して上振れ、前年同期比増益
- ✓ 国内:自動車関連が市況影響を受けたが、缶材・厚板・一般材の販売が増加
- ✓ 海外:旺盛なグローバル缶材需要(特に北米)を捉え、TAA*1/UATH*2ともに増益

2

■ 2022年度 通期業績見通し

- ✓ 外部環境の変化があるものの、当社の強みを活かし**実力利益235億円は予定通り**
- ✓ 強みである「3極連携」、「強固な顧客基盤」、「多品種・用途への対応力」を活かして対応
- ✓ アルミ地金価格、北米金利上昇、自動車関連の需要動向などをリスク要因として注視

3

■ 構造改革の進捗




- ✓ 各施策については予定通り進捗
- ✓ 構造改革効果**210億円**

*1 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc.

*2 UATH : UACJ (Thailand) Co., Ltd.,

外部環境の変化と対応について

外部事業環境の変化への対応継続、収益へのインパクトの最小化を図る

外部環境の変化と対応	国内 	TAA(米国) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁交渉は 大方のお客様で合意	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを 導入済)	新規契約 市場価格連動の 価格スキームを 導入済 既存契約の見直し 一部のお客様と エネルギー価格高騰分 の転嫁を合意
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを 導入済		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を 導入済)

1. 2022年度 上期業績

2. 構造改革の進捗

3. 2022年度 通期業績見通し

4. サステナビリティへの取り組み

5. ご参考データ

1. 2022年度 上期業績



上期 棚卸資産影響前経常利益 139億円(前年同期比 +7億円)

上期 経常利益 207億円(前年同期比 △51億円)

■ 数量 : 683千トン 前年同期比 +33千トン

- 缶材:UATH(タイ)、TAA(米国)が引き続き増加
- 厚板:半導体製造装置向けの需要が増加
- 一般材:エアコンフィン材は世界的なエアコン需要の取り込み、印刷版材は国内回帰により増加
- 自動車関連(自動車材、箔、IT材):半導体不足や世界的なサプライチェーンの混乱の影響を受ける

■ 棚卸影響前経常利益 : 前年同期比 +7億円

◎増益要因(構造改革効果を含む)

- 国内事業業績改善
- UATH業績改善
- TAA業績好調継続

△減益要因

- エネルギー価格の上昇

上期 業績

(単位:億円)

	2021年度 上期 (A)	2022年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	3,650	4,898	1,247
連結営業利益	299	215	△84
棚卸資産影響前 連結経常利益	132	139	7
棚卸資産影響額	126	68	△58
連結経常利益	258	207	△51
連結当期純利益*1	173	152	△21
Adjusted EBITDA*2	327	314	△13

*1 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

*2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸評価関係

セグメント別 売上高・営業利益

(単位:億円)

	2021年度 上期 (A)		2022年度 上期 (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	3,269	326	4,382	245	1,114	△81
加工品・関連事業	765	2	956	△0	190	△2
(調 整 額)	△ 384	△ 29	△441	△30	△57	△1
合 計	3,650	299	4,898	215	1,247	△84

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

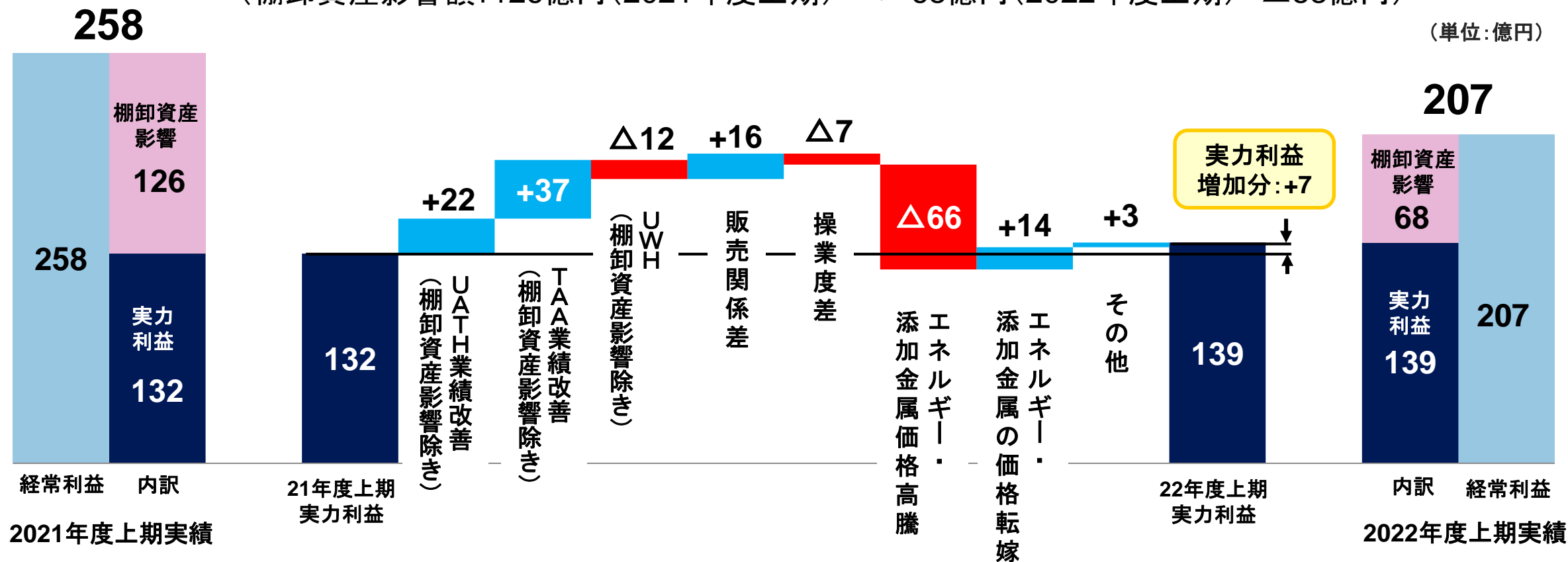
品 種	2021年度 上期 (A)	2022年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	409	447	38
箔 地	29	24	△6
I T 材	7	5	△2
自動車材	73	59	△14
厚 板	25	29	4
その他一般材	107	118	12
合 計	650	683	33
	国内市場向け 245 海外市場向け 405	国内市場向け 244 海外市場向け 439	国内市場向け △1 海外市場向け 34

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2021年度上期 → 2022年度上期)

上期棚卸資産影響前連結経常利益: **132億円** (2021年度上期) → **139億円** (2022年度上期)

(棚卸資産影響額: 126億円(2021年度上期) → 68億円(2022年度上期) Δ58億円)

(単位: 億円)



連結貸借対照表、資金運用表

財務基盤の源泉となる長期資金は増加も、アルミ地金高騰により短期資金は不足

連結貸借対照表

(単位:億円)	22/3末 (A)	22/9末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び預金	143	211	68
受取手形及び売掛金	1,227	1,414	187
棚卸資産	2,324	2,664	341
その他流動資産	252	383	131
有形・無形固定資産	3,985	4,228	243
投資その他の資産	356	392	36
資産合計	8,287	9,293	1,006
支払手形及び買掛金	1,186	1,177	△8
短期借入金	1,419	2,085	666
長期借入金	1,975	1,805	△170
その他	1,231	1,284	53
株主資本合計	2,090	2,201	111
その他包括利益	190	505	315
非支配株主持分	196	236	40
負債及び純資産合計	8,287	9,293	1,006

資金運用表

	用途	調達
長期資金	設備投資 130	税引前利益 200
	法人税支払 71	減価償却費 182
	長期資金余剰 181	
短期資金	運転資金増加 345	
		短期資金不足 345

長期資金余剰 181億円

短期資金不足 345億円

FCF △ 165億円

長期資金:財務基盤の強化の源泉となる資金の創出
短期資金:アルミ地金価格等高騰による運転資金の増加

連結キャッシュフロー計算書

アルミ地金、添加金属等の価格上昇で運転資金が増加したことにより営業CFが減少

2022年度上期 連結キャッシュフロー

(単位: 億円)

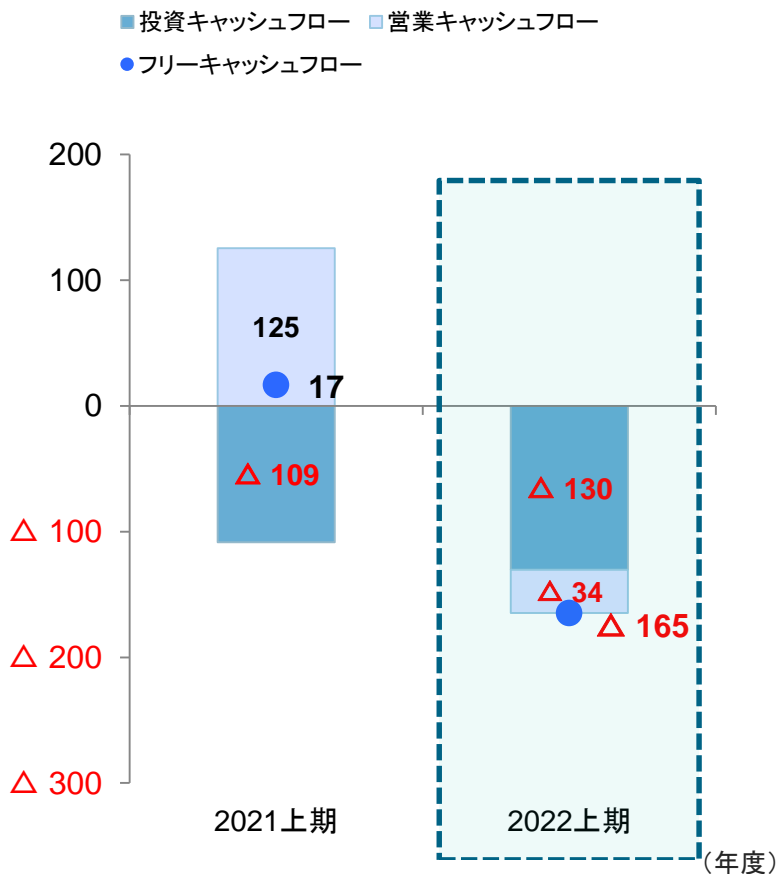
税引前利益	200
減価償却費(のれん含む)	182
① アルミ地金価格等の上昇による運転資金の増加他	△ 416
営業キャッシュフロー計	△ 34
設備投資 他	△ 130
フリーキャッシュフロー	△ 165
配当(非支配株主向けを含む)	△ 48
ファイナンススキーム他	△ 26
② 有利子負債にかかる為替影響(△は借入金増加)	△ 189
現預金増減(△は増加)	△ 68

有利子負債の増加

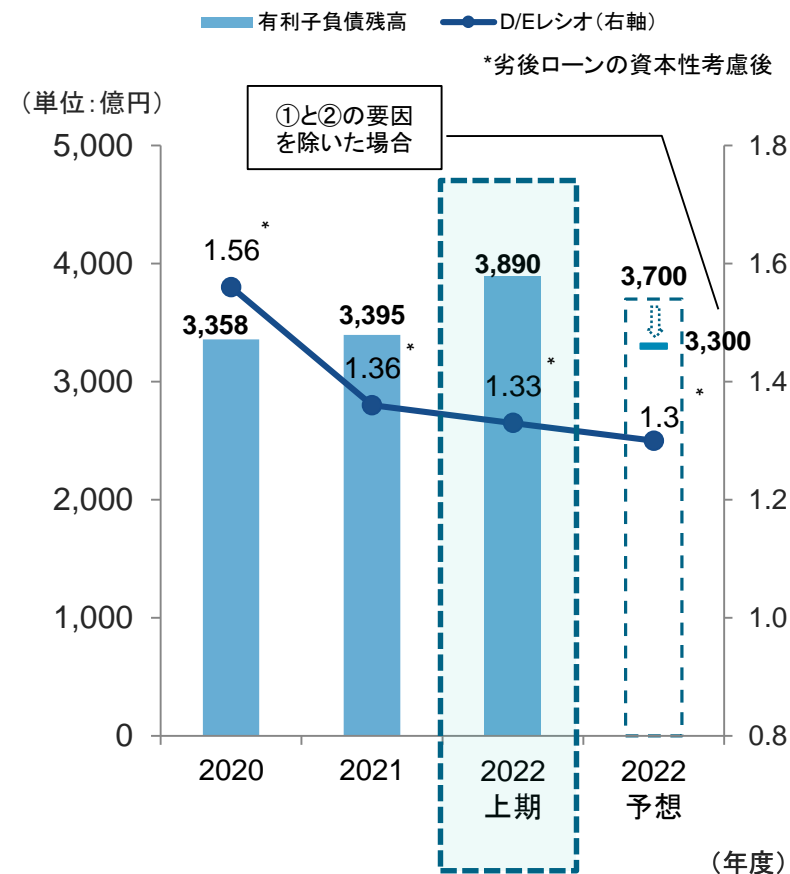
496

連結キャッシュフロー 推移

(単位: 億円)



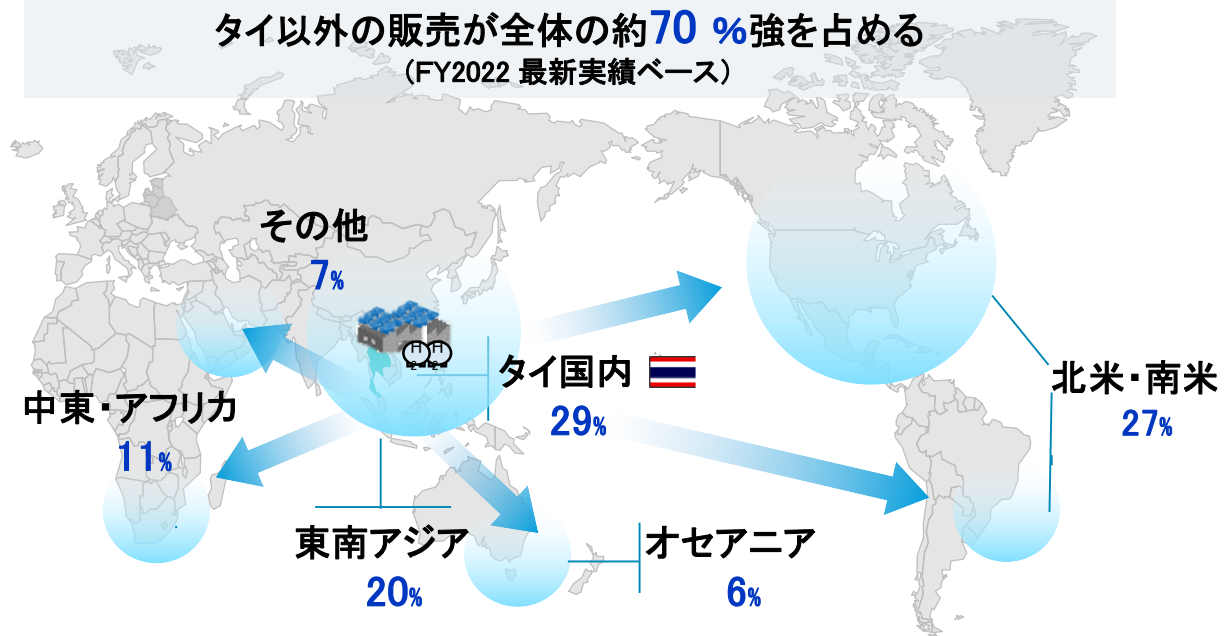
有利子負債残高・D/Eレシオ



タイ(UATH)の状況 ～2022年度上期 総括

グローバルでの旺盛な缶材需要、エアコンフィン材需要の取り込みにより増収増益

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



収益変動要因と改善への打ち手

- エネルギーコストの高騰
- 海運コストをはじめとした物流コストの高騰
- 添加金属価格の高騰
- 物流コスト、添加金属の高騰分はおおよそのお客様と合意
- エネルギーコスト高騰分の転嫁は一部のお客様と合意

上期 総括

- 需要** : 世界的な半導体不足による自動車生産調整の影響あるも、缶材・フィン材の堅調な需要は継続
- 販売** : 好調な缶材に加え、エアコンフィン材の販売好調
- 生産量** : **27千t/月** (2022年1～6月)
- 販売量** : **27千t/月** (2022年1～6月)

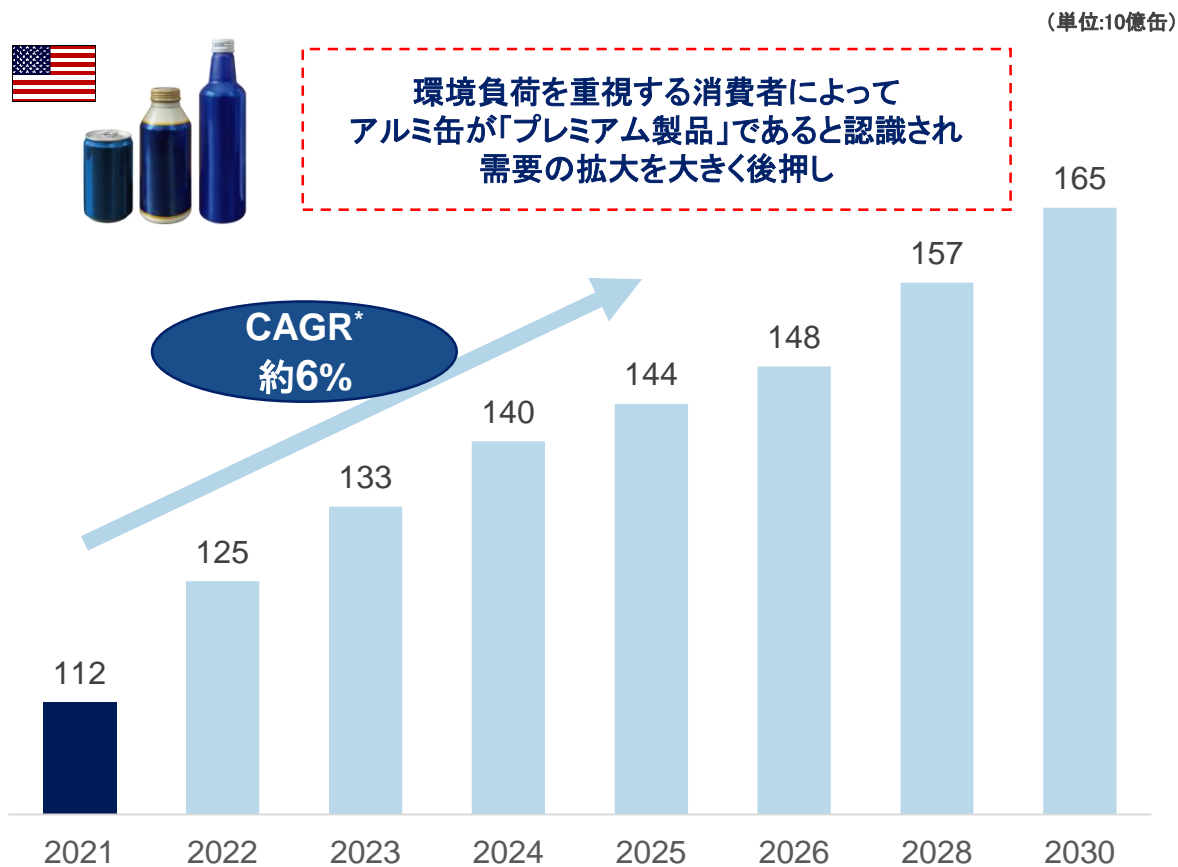
(単位: 億円)

損益	21年度 上期	22年度 上期	前年同期比
売上高	592	973	381
営業利益	34	51	17
棚卸資産影響前 経常利益	△ 5	17	22
経常利益	10	33	23

米国(TAA)の状況 ~2022年度上期 総括

旺盛な米国缶材需要を捉え、増収・増益(棚卸影響前経常利益)

米国飲料缶販売予測推移



出典:TAA調査による

上期 総括

缶材需要 : 長期的に旺盛な需要環境継続

販売量 : 45千t/月(2022年4~9月)
※国内・UATH出荷分含む

生産能力 : 約450千t/年体制確立

増産対応 : 北米生産拠点の設備増強を検討中

損益 :

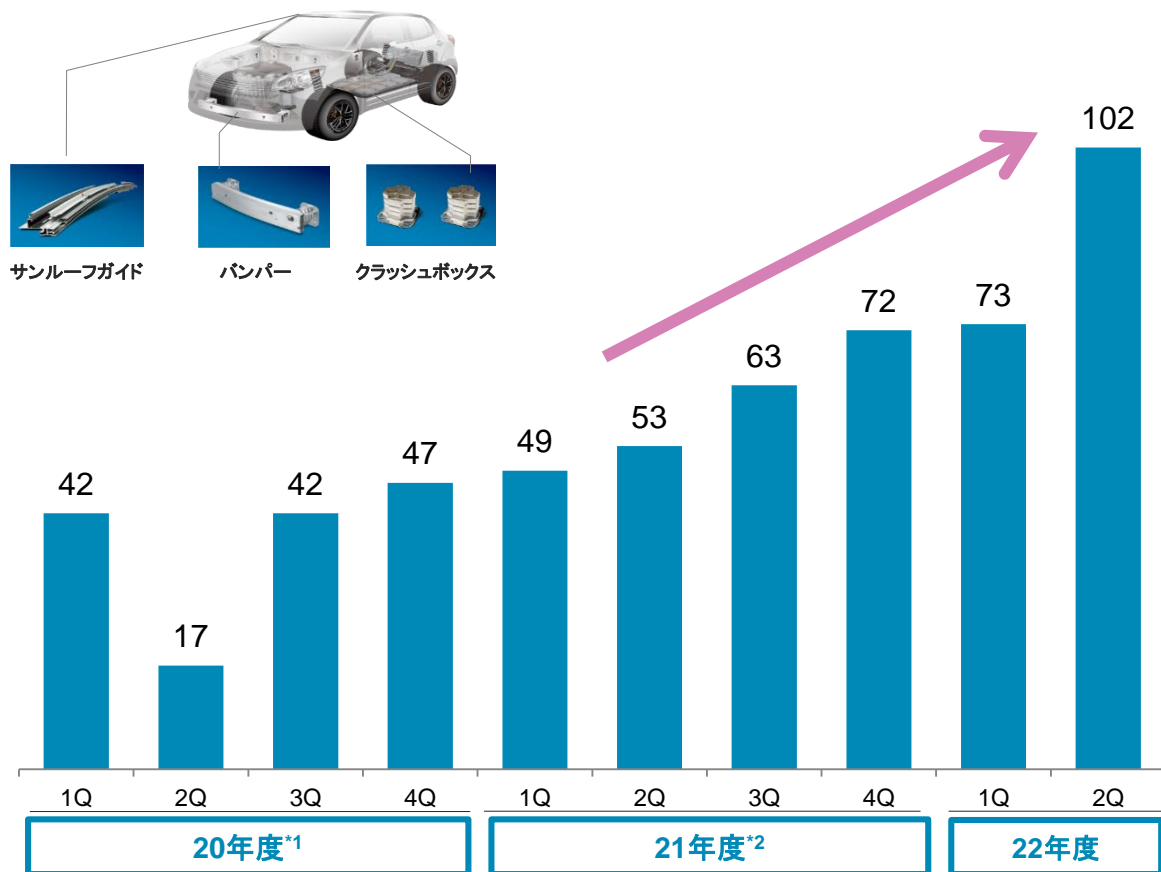
(単位:億円)

	21年度 上期	22年度 上期	前年同期比
売上高	1,108	1,556	448
営業利益	163	68	△95
棚卸資産影響前 経常利益	57	94	37
経常利益	151	53	△98

米国(UWH)の状況 ~2022年度上期 総括

受注済大型案件の生産が始まるも、自動車生産混乱の影響を受ける

UWH 売上高推移(単位:億円)



上期 総括

- 市場環境** : 2035年内燃機関車の販売禁止と、米国政府の政策により、米国内生産のEV需要は増加
- 販売** : 上期は半導体不足等によるお客様生産稼働状況の影響を受ける
下期以降、上記要因の解消に伴って、収益は改善が見込まれる
- 生産体制** : 新ラインは稼働準備が整うとともに、自動化、コスト削減などの施策を実施

損益

(単位:億円)

	21年度 上期	22年度 上期	前年同期比
売上高	102	175	73
営業利益	△ 8	△ 17	△ 9
棚卸資産影響前 経常利益	△ 9	△ 21	△ 12
経常利益	△ 9	△ 21	△ 12

*1 20年度...2020年1月~12月

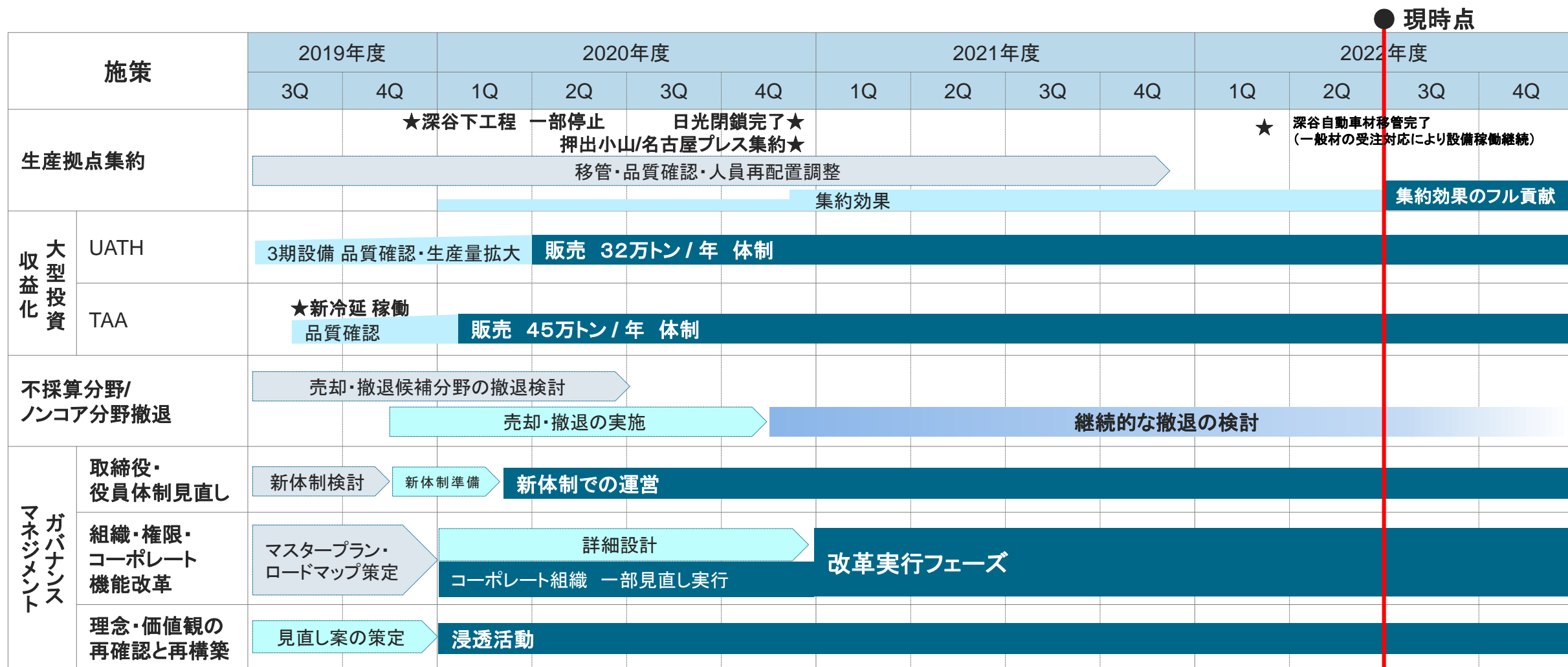
*2 21年度...2021年4月~2022年3月

2. 構造改革の進捗



構造改革の進捗

コロナ禍でのお客様認定遅れ解消、生産拠点集約遅延がキャッチアップ

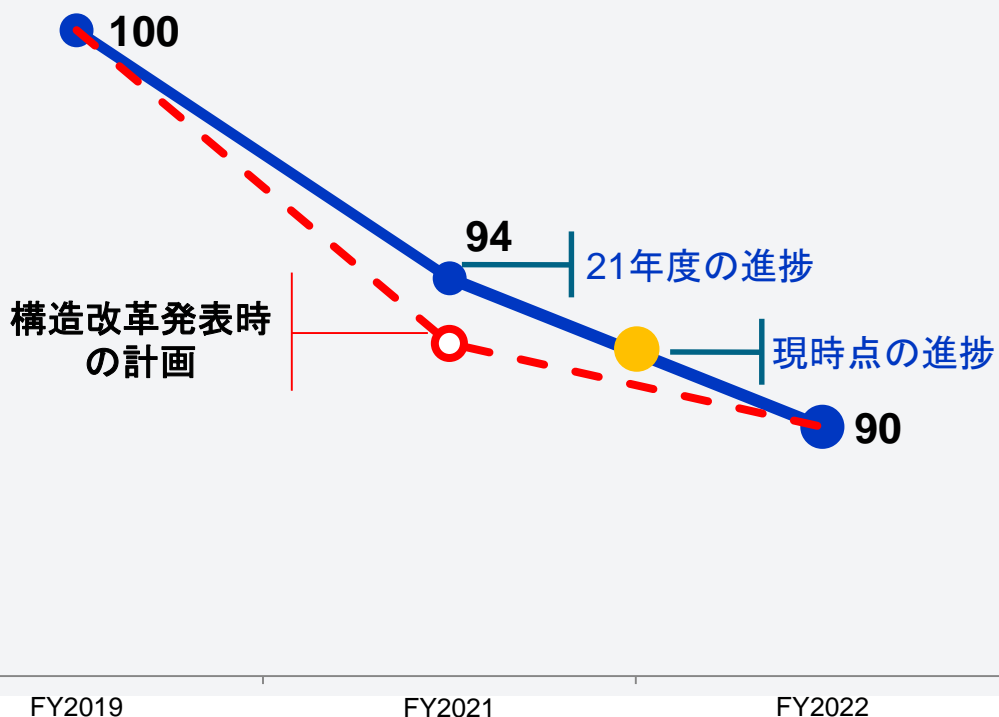


構造改革施策の効果

損益分岐点は今までの構造改革の取り組みにより、着実に下がってきている

国内板事業 損益分岐点の推移

2019年度実績を100とした時の指数



*1 UMP: UACJ Marketing & Processing

*2 タイ押出加工: UACJ Extrusion (Thailand)

*3 中国・押出子会社: 日鋁全綜(天津)精密業有限公司

主要施策の進捗

- **生産拠点の集約化による固定費削減・稼働率向上**
 - ・日光製造所閉鎖→自動車熱交材のUMP*1への集約 → 完了
 - ・名古屋/福井へ集約 → 22年度未完了
 - ・押出小山/名古屋 プレス集約と最適化 → 活動中
- **採算性の向上**
 - ・注力・成長分野への対応 → 活動中(計画通り)→進展情報
 - ・低採算分野の是正・撤退 → 活動中(大半は実施済)
 - ・値決め構造の是正(追加施策) → 実施済み、想定通りの効果顕現
- **選択と集中**
 - ・英国圧延事業 ブリッジノースから撤退 → 完了(2022年3月)
 - ・タイ押出加工*2 アユタヤ工場閉鎖 → 完了(2022年1月)
 - ・中国・押出子会社*3 出資持分一部譲渡手続き → 完了(2021年12月)
 - ・中国・金属加工子会社(無錫)閉鎖決定(2022年11月)
- **最適生産体制の構築**
 - ・自動車材の生産性向上 → 計画通り
 - ・福井新CALP(自動車材仕上げライン)活用による製造所間の品種/工程分担の見直し、最適化 → 22年度未完了
- **間接費用の削減**
 - ・間接人員の削減等 → 計画通り
 - ・IT化投資等による業務プロセスの改善 → 活動中(計画通り)

構造改革施策の推移

生産拠点の集約をキャッチアップ、追加施策実施で210億円に目処

【構造改革の前提条件】

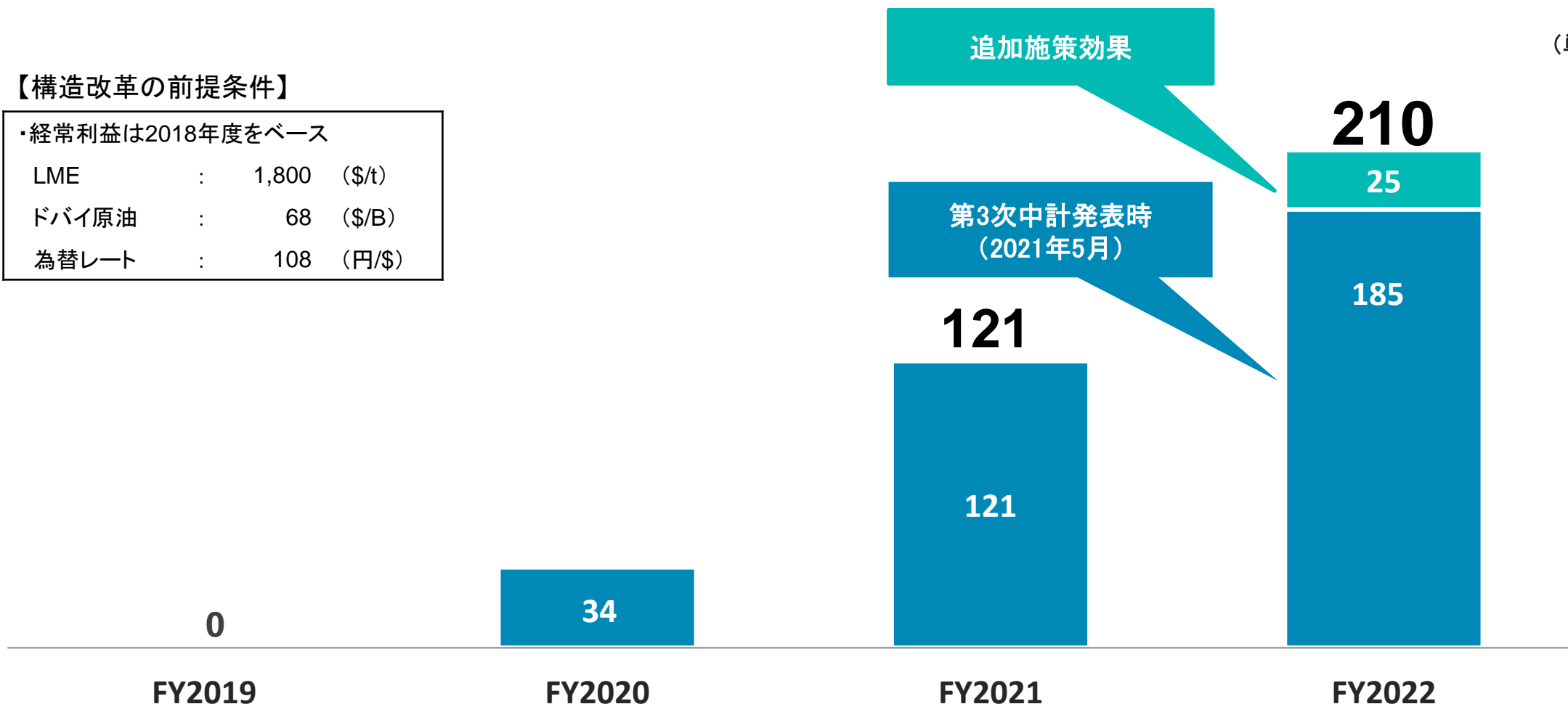
・経常利益は2018年度をベース

LME : 1,800 (\$/t)

ドバイ原油 : 68 (\$/B)

為替レート : 108 (円/\$)

(単位:億円)



構造改革実施による収益改善効果

ロールマージン改定や製造コストダウン等の施策実施で、210億円達成は必ず実現させる

	構造改革発表時 (2019年9月)	第3次中計発表時 (2021年5月)	2021年度 決算発表時 (2022年5月)	最新見通し
国内 : 収益構造改革	+100億円	+67億円	+101億円	+101億円
生産拠点集約	+40億円	+34億円	+21億円	+21億円
最適生産体制・品種構成改善(自動車材・電池材増加)	+50億円	+25億円	+70億円	+70億円
間接費削減(間接人員削減等)	+10億円	+8億円	+10億円	+10億円
海外 : 大型投資収益化	+110億円	+118億円	+109億円	+109億円
UATH 第3期投資稼働開始で、販売量拡大とコスト削減	+70億円	+76億円	+70億円	+70億円
TAA 増産投資完了による販売量増加、価格改定実現	+20億円	+19億円	+24億円	+46億円
UWH 収益性重視の受注、押出機を生かし売上拡大	+20億円	+23億円	+15億円	△7億円
構造改革効果	+210億円	+185億円	+210億円	+210億円

3. 2022年度 通期業績見通し



経営環境認識

全体

- 消費者の環境意識向上にともなってグローバルで缶材、自動車材を中心としたアルミニウム素材の需要は増加
- 「6事業連携」や「強固な顧客基盤」「多品種・多用途への対応力」を活かし増加する需要を取り込む

缶材

中長期的には、グローバルで旺盛な需要が継続
下期については、一時的にサプライチェーン混乱で生じた過剰在庫消化の影響を受ける

自動車材

中長期的には、環境性能向上のための軽量化や、EV化によって需要は増加
下期については、サプライチェーン混乱による自動車生産減が収束に向かうが、3Qはその影響が残る

その他

厚板: 半導体製造装置向けは中長期では需要は堅調
エアコンフィン材: エアコン需要が増加しており、エアコンフィン材の需要も堅調
印刷版材: 国内回帰の需要を取り込みにより堅調に推移

2022年度 通期業績見通し(前年度比 増収、棚卸資産影響前連結経常利益増益)

(単位:億円)	2022年度 (5月時見通し) (A)	2022年度 (最新見通し) (B)	2021年度 (実績) (C)	増減 (B)－(A)	増減 (B)－(C)
連結売上高	9,400	9,000	7,829	△400	1,171
連結営業利益	310	210	595	△100	△385
棚卸資産影響前 連結経常利益	235	235	213	0	22
棚卸資産影響額	20	△80	310	△100	△390
連結経常利益	255	155	523	△100	△368
連結当期純利益	150	100	321	△50	△221
Adjusted EBITDA	628	628	602	0	26
年間配当	85円/株	85円/株	85円/株	—	—

アルミ板 品種別売上数量(最新見通し)

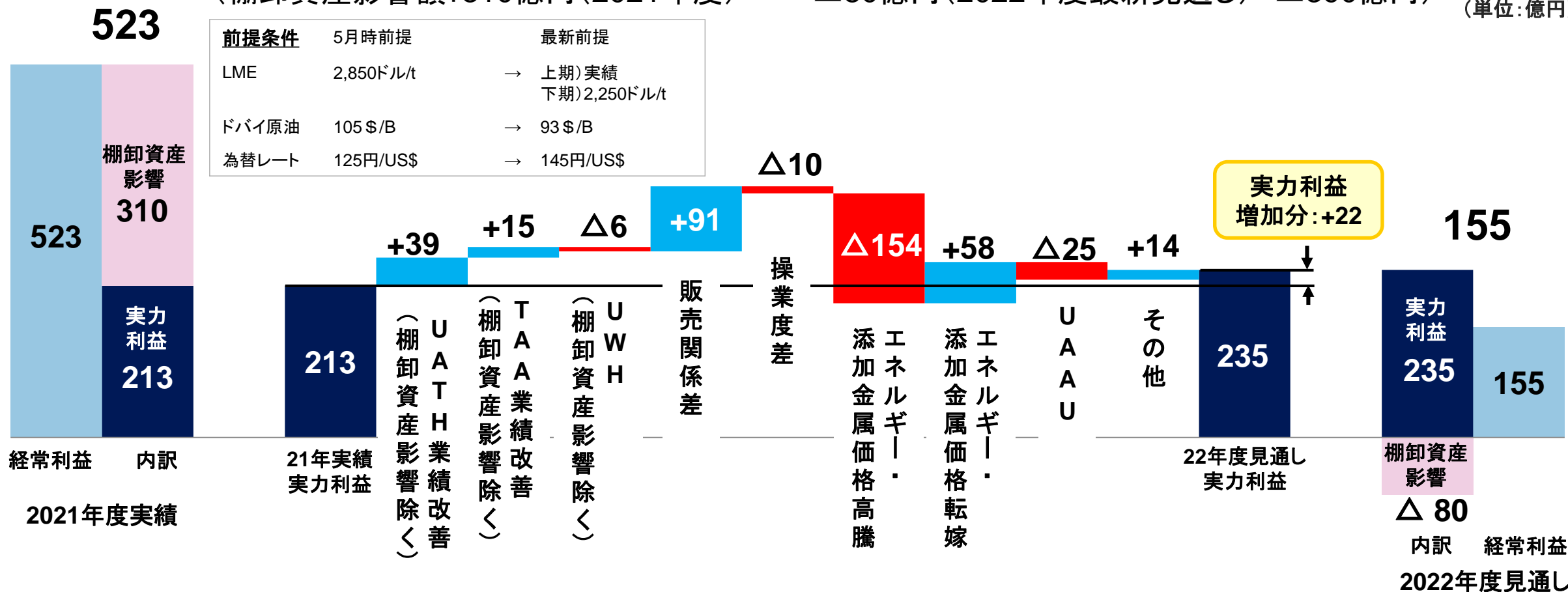
(単位:千トン)

品 種	2022年度 (5月時見通し) (A)	2022年度 (8月時見通し) (B)	2022年度 (最新見通し) (C)	2021年度 実績 (D)	増 減 (C)－(A)	増 減 (C)－(B)	増 減 (C)－(D)
缶 材	891	904	904	816	13	△1	88
箔 地	58	56	47	56	△11	△9	△9
I T 材	18	16	11	14	△7	△4	△3
自動車材	154	143	128	138	△25	△15	△10
厚 板	60	60	58	53	△2	△2	5
その他一般 材	238	237	240	216	2	3	24
合 計	1,419 国内市場向け 541 海外市場向け 878	1,416 国内市場向け 525 海外市場向け 891	1,389 国内市場向け 494 海外市場向け 895	1,293 国内市場向け 479 海外市場向け 815	△30 国内市場向け △48 海外市場向け 17	△27 国内市場向け △31 海外市場向け 4	96 国内市場向け 15 海外市場向け 80

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2021年度 → 2022年度最新見通し)

棚卸資産影響前連結経常利益: **213億円** (2021年度) → **235億円** (2022年度最新見通し)

(棚卸資産影響額: 310億円(2021年度) → $\Delta 80$ 億円(2022年度最新見通し) $\Delta 390$ 億円) (単位: 億円)

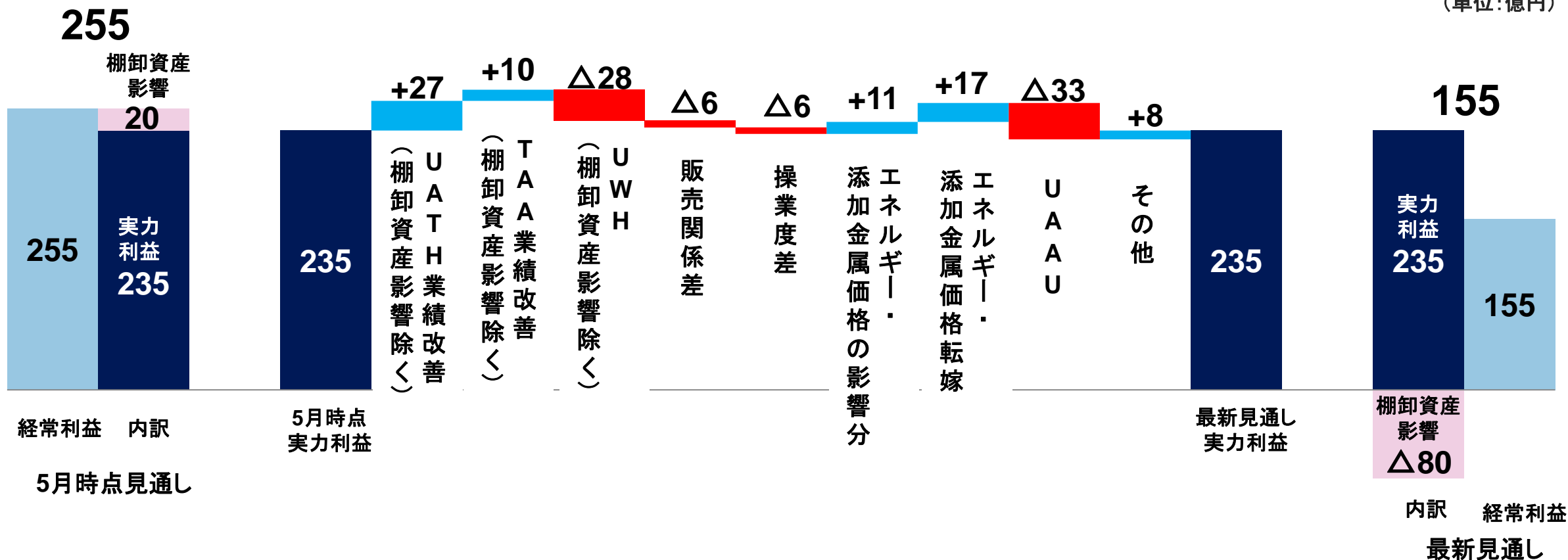


棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2022年5月見通し → 2022年度最新見通し)

棚卸資産影響前連結経常利益： **235億円** (2022年5月時見通し) → **235億円** (2022年度最新見通し)

(棚卸資産影響額：20億円(2022年5月時見通し) → Δ 80億円(2022年度最新見通し) Δ 100億円)

(単位：億円)



設備投資・減価償却費

設備投資額は減価償却の7割を維持
気候変動対策等へ一定額を配分し、計画的に進める

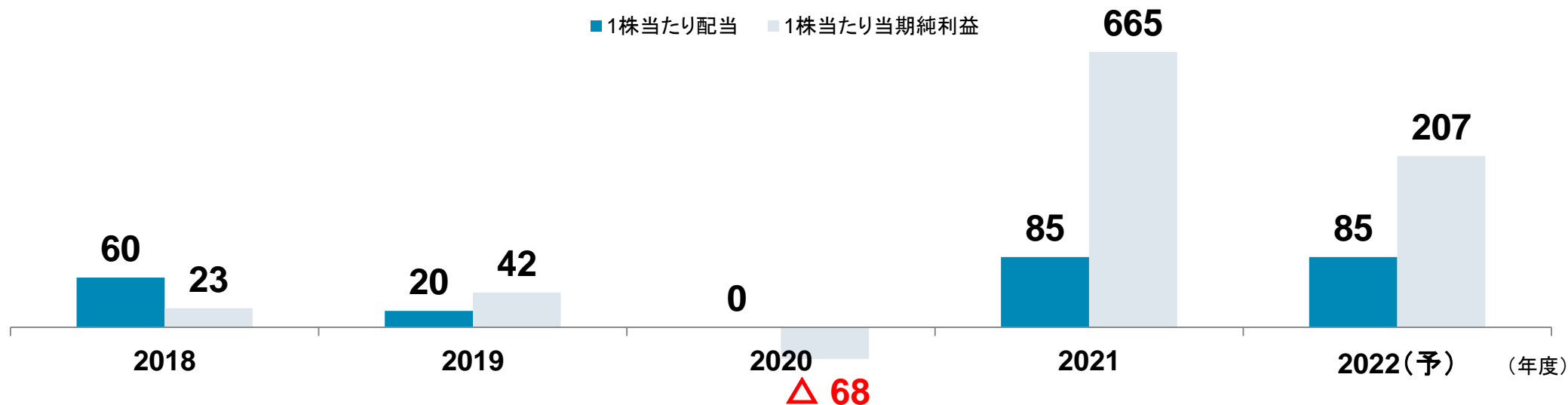
(単位:億円)		2021年度 上期	2021年度 通期	2022年度 上期	2022年度 見通し
設備投資	一般投資	76	128	73	255
	戦略投資	34	79	28	68
	合計	110	207	101	323
減価償却費		169	340	182	347

株主還元

1株当たり配当金は85円で据え置く

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す

1株当たり配当 / 1株当たり当期純利益(円)



4. サステナビリティへの取り組み



企業理念とサステナビリティ基本方針

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

サステナビリティ基本方針

「100年後の軽やかな社会のために」

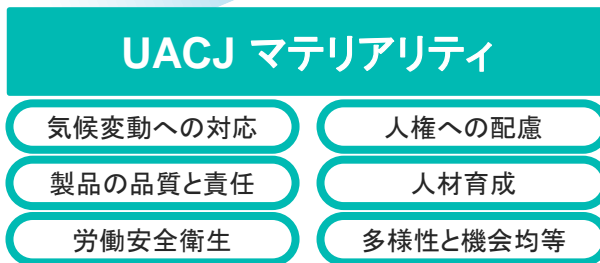
“UACJ VISION 2030” で目指す社会課題の解決

アルミニウムを究めて、サステナブルな社会の実現に貢献する



付加価値の追求

社会課題の解決



VISION 2030

- ・成長分野や成長市場の需要捕捉により、より広く社会の発展に貢献
- ・素材+αで、社会的・経済的な価値の向上に貢献
- ・新規領域への展開により、社会課題の解決に貢献
- ・製品ライフサイクルでのCO₂削減により、環境負荷の軽減に貢献



社会課題の解決 – 「100%リサイクル缶」による環境負荷低減へ

サントリー「ザ・プレミアム・モルツ」に100%リサイクルアルミ材の使用で、CO₂排出量を約60%削減

環境・エネルギー



これからの地球環境に
軽やかさを…



- ✓ 世界初の100%リサイクル缶を、サントリー株式会社・東洋製罐グループホールディングス株式会社と共同で実現
- ✓ 新地金を使用せず、缶胴、フタ、タブ材のすべてをUBC(使用済飲料缶)やアルミ缶材の製造工程で生じた端材を使用
- ✓ 環境負荷低減を見据え、選別や分離、アルミ板製造工程などに特別な管理を行うことにより、100%リサイクルアルミ缶用板材を製造

反対面



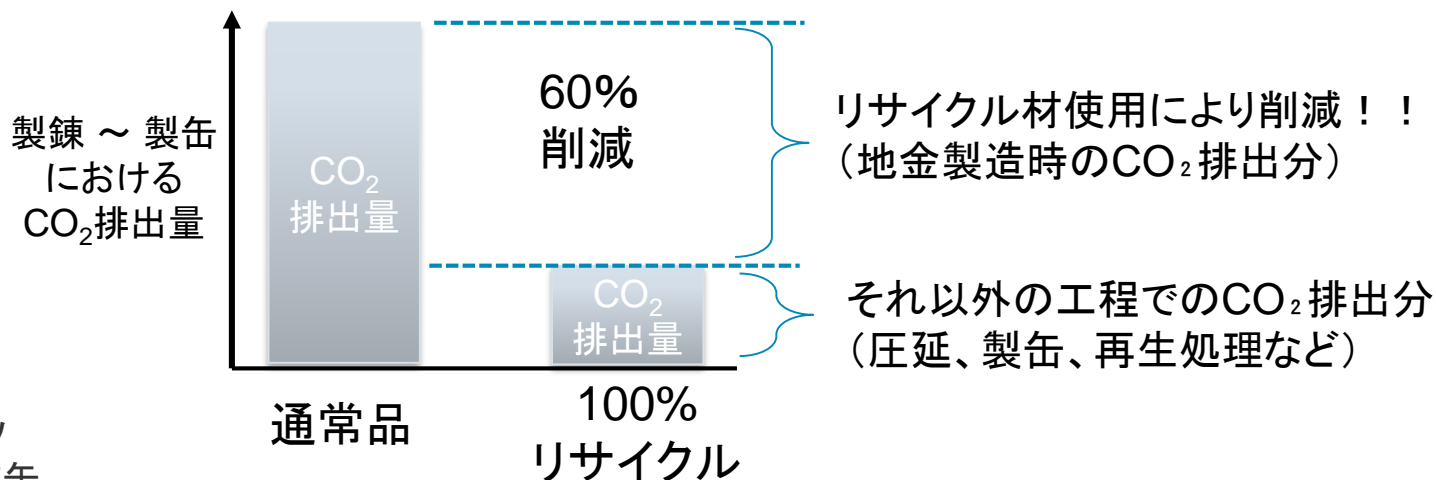
ザ・プレミアム・モルツ
CO₂削減缶



ザ・プレミアム・モルツ
<香る>エール CO₂削減缶



【製錬から製缶までのCO₂排出削減のイメージ】



社会課題の解決 - 「アルミならではの」を生かした新商品・新事業



いつでも どこでも あなただけの空間を

「UACJ Innovators」(社内ベンチャー支援制度)事業化案件

ライフスタイル ヘルスケア



日々の暮らしや労働に
軽やかさを...



2022年10月3日から製造・販売開始

製品HP <https://origami.uacj-group.com/>

軽量、コンパクトな折りたたみ構造、「フェーズ・フリー」な使い方が可能なパーソナル・ブース【origami™】

- ・オフィスでは多様な働き方を支えるワーク・スペースとして
- ・災害時の避難所などではパーソナル・スペース確保のために

アルミの軽さを生かした折りたたみ構造だから



搬送や設置が楽

スペースに合わせた移動やレイアウト変更が簡単



使わない時は半分の奥行に折りたためるコンパクト設計

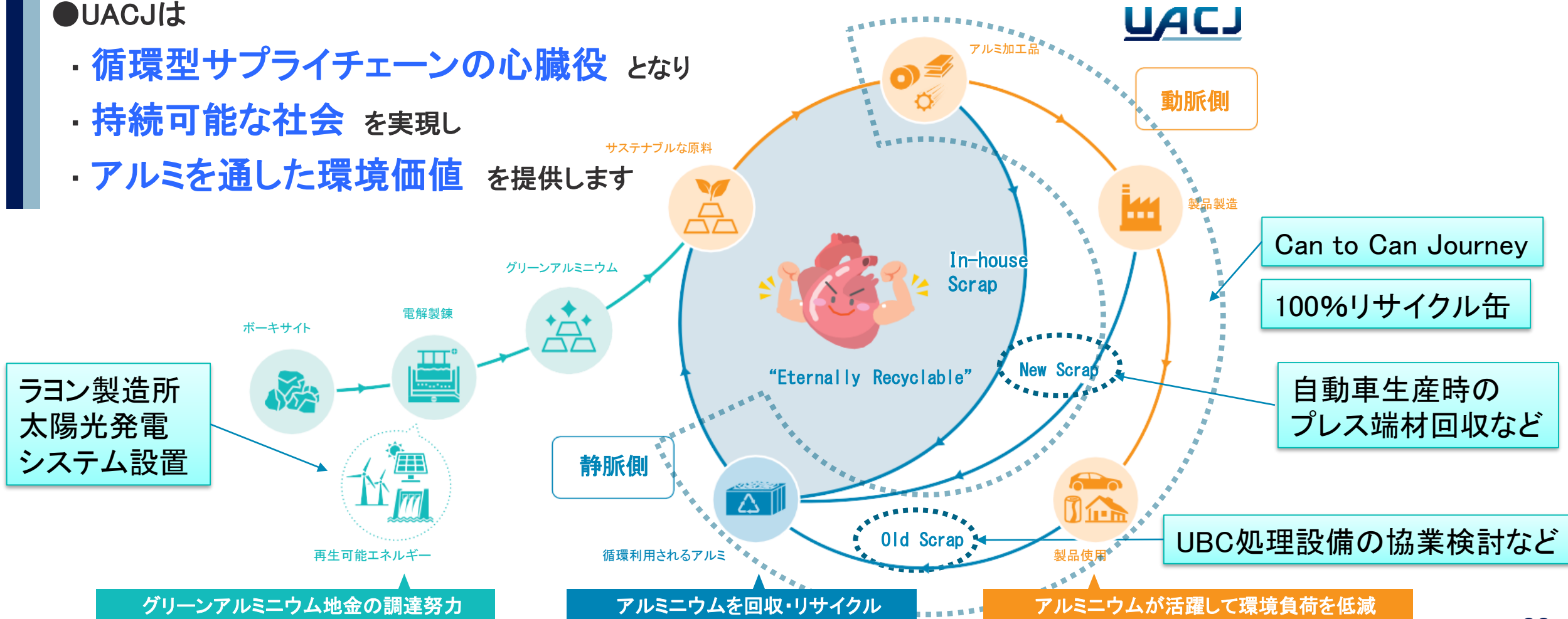


熱伝導性が良いアルミ構造なので、設置場所の空調環境に馴染みやすくブース内が快適

社会課題の解決 - アルミで創る循環の輪～サーキュラーエコノミーの心臓へ

●アルミニウムは
『何度でも』『永久に』リサイクル可能な素材です

- UACJは
- ・循環型サプライチェーンの心臓役 となり
 - ・持続可能な社会 を実現し
 - ・アルミを通じた環境価値 を提供します



ESG説明会

2022年11月29日(火) 10:00~12:00

形式 ZOOM開催

登壇者	代表取締役社長	石原 美幸
	取締役常務執行役員	田中 信二
	専務執行役員	山口 明則
	執行役員	隈元 穰治
	サステナビリティ推進部	野瀬 健二

5. ご参考データ



統合報告書 公開のお知らせ



■ 2022年9月30日、最新の統合報告書を当社HPで公開

■ 「アルミでかなえる、軽やかな世界」へ向けた道筋として、環境負荷低減につながるリサイクルの目指す姿、持続的な成長を実現するための重点方針と取り組みを中心として編集

■ 特集として、
・米国の旺盛な缶材需要への対応
・自動車部品事業について
・サステナビリティへの取り組み
を紹介しています。

ぜひご一読いただき、
忌憚のないご意見やご感想をお寄せください

(HP) <https://www.uacj.co.jp/ir/library/factbook.htm>

UACJグループ理念

当社の存在意義(パーパス)を問い直し、グループ理念体系を再定義



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

行動指針/UACJウェイ

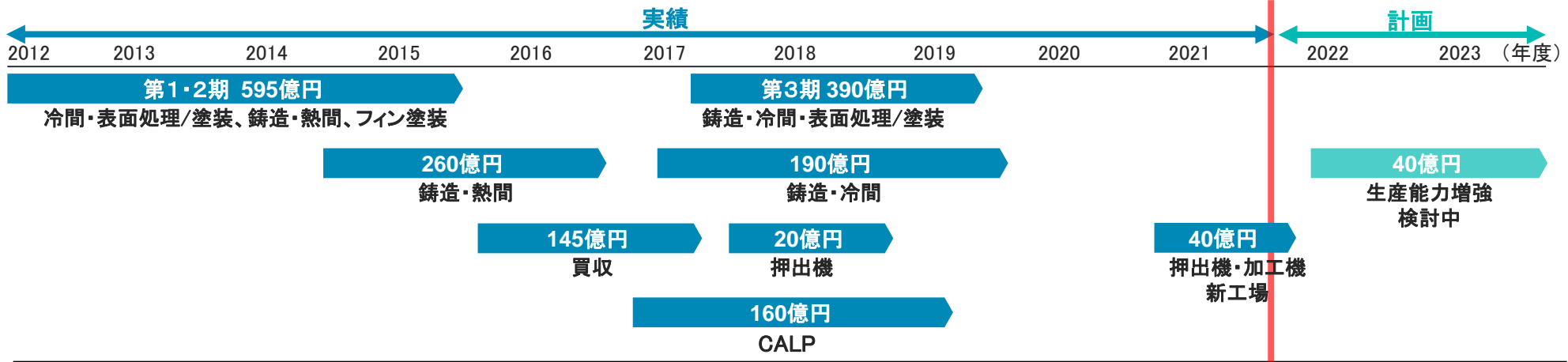


アルミ圧延事業の産業構造について(投資とリターンの関係性)

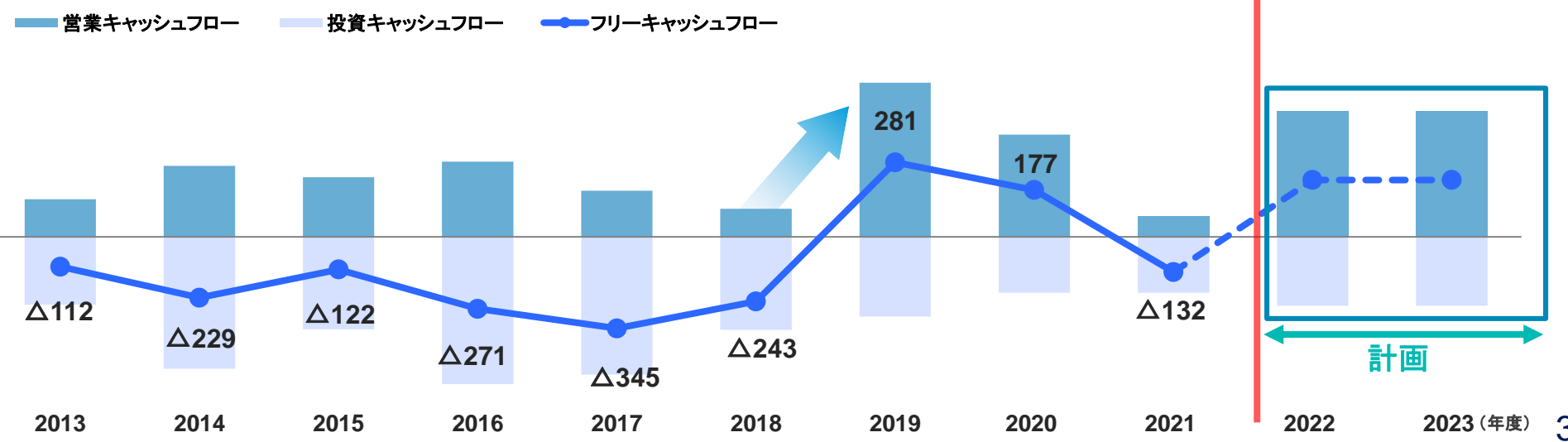
生産立上げから量産、投資の回収まで5年以上要する中、19年度より投資回収フェーズへ

主な戦略投資／投資

UATH (タイ)	985億円
TAA (米)	490億円
UWH (米)	205億円
福井	160億円



注力市場、注力分野への先行投資フェーズ (2012-2019) | 先行投資の回収フェーズ (2020-2023)



連結キャッシュフロー

2013-2021年度 実績
2022-2023年度 計画

諸元と感応度

	2020年度 (3月末)	2021年度 (3月末)	2022年度 (9月末)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	243	378	421	10円/kg上昇した場合 → +20~30億円/年
LME (米\$)	1,802	2,796	2,384	\$100/t上昇した場合 → +22~35億円/年
為替 (円/米\$)	106	112	140	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属:円高が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.4	3.4	3.8	・ロールマージン、為替換算差:円安が有利
原油 (ドバイ:米\$)	45	78	97	10ドル上昇した場合 → Δ10~15億円/年

5. ご参考データ

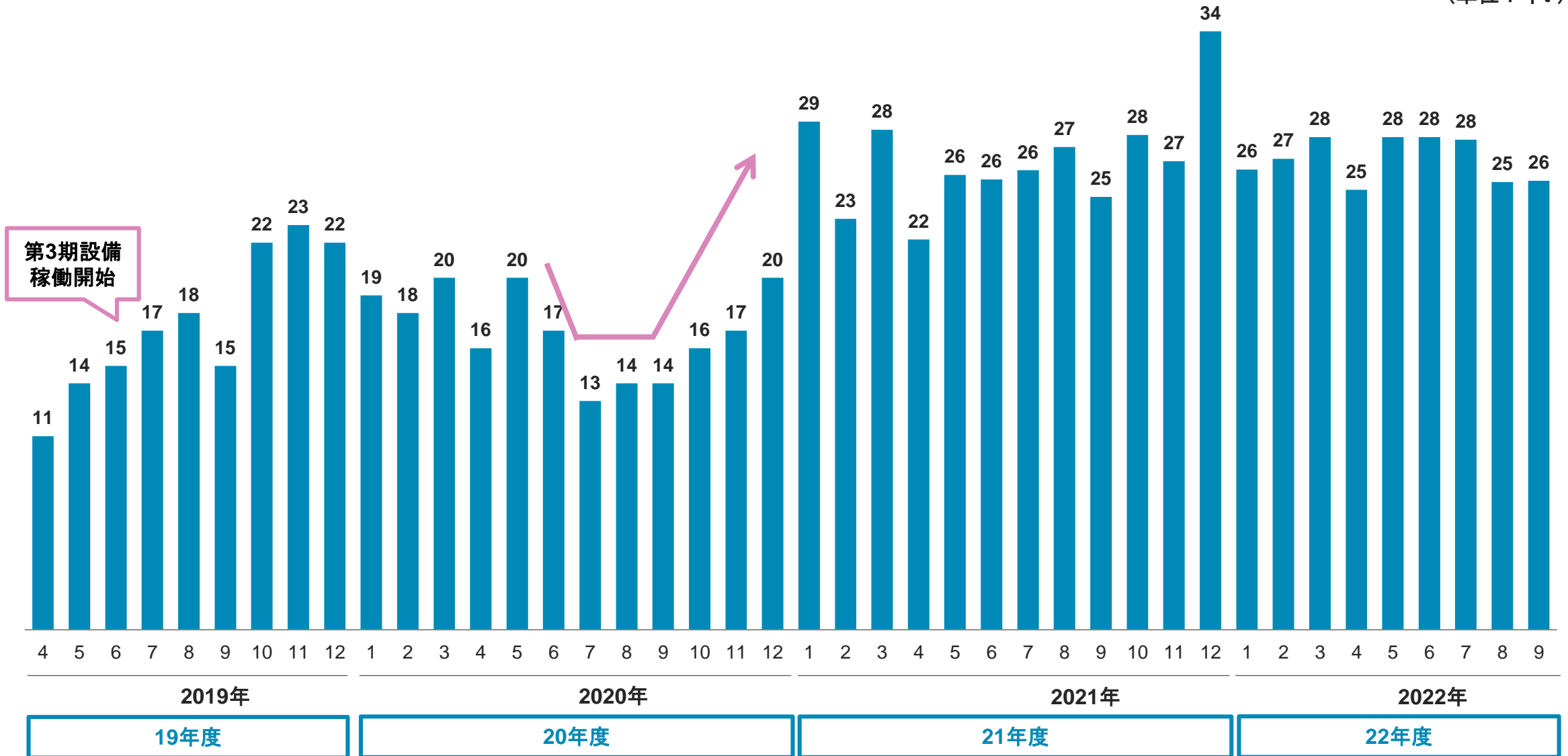
主要指標推移

(単位:億円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 1Q(単期)	2022年度 2Q(単期)	2022年度 上期	2022年度 見通し	
連結売上高	6,243	6,613	6,152	5,698	7,829	2,473	2,425	4,898	9,000	
連結営業利益	292	149	101	111	595	183	32	215	210	
棚卸資産影響前 連結経常利益	113	30	98	62	213	102	37	139	235	
連結経常利益	194	62	38	60	523	199	8	207	155	
親会社株主に帰属する 当期純利益	123	11	20	△33	321	142	8	152	100	
設 投 備 資	一般投資	147	161	143	109	129	25	48	73	255
	戦略投資	365	365	347	72	79	10	18	28	68
	合計	215	525	489	181	207	36	65	101	323
減価償却費	251	307	312	334	340	90	92	182	347	
有利子負債残高	3,423	3,751	3,440	3,358	3,394	3,787	3,890	3,890	3,700	
R O E (%)	6.5	0.6	1.1	△1.8	14.1	-	-	-	4.0	
R O I C (%)	5.8	2.3	1.9	2.2	11.1	-	-	-	3.5	
D / E レシオ (倍)	1.50	1.68	1.56	1.56	1.36	1.36	1.33	1.33	1.3	
営業キャッシュフロー	174	107	581	386	78	△94	△32	△32	-	
投資キャッシュフロー	△519	△349	△300	△210	△210	△73	△130	△130	-	
フリーキャッシュフロー	△345	△243	281	177	△132	△167	△163	△163	-	

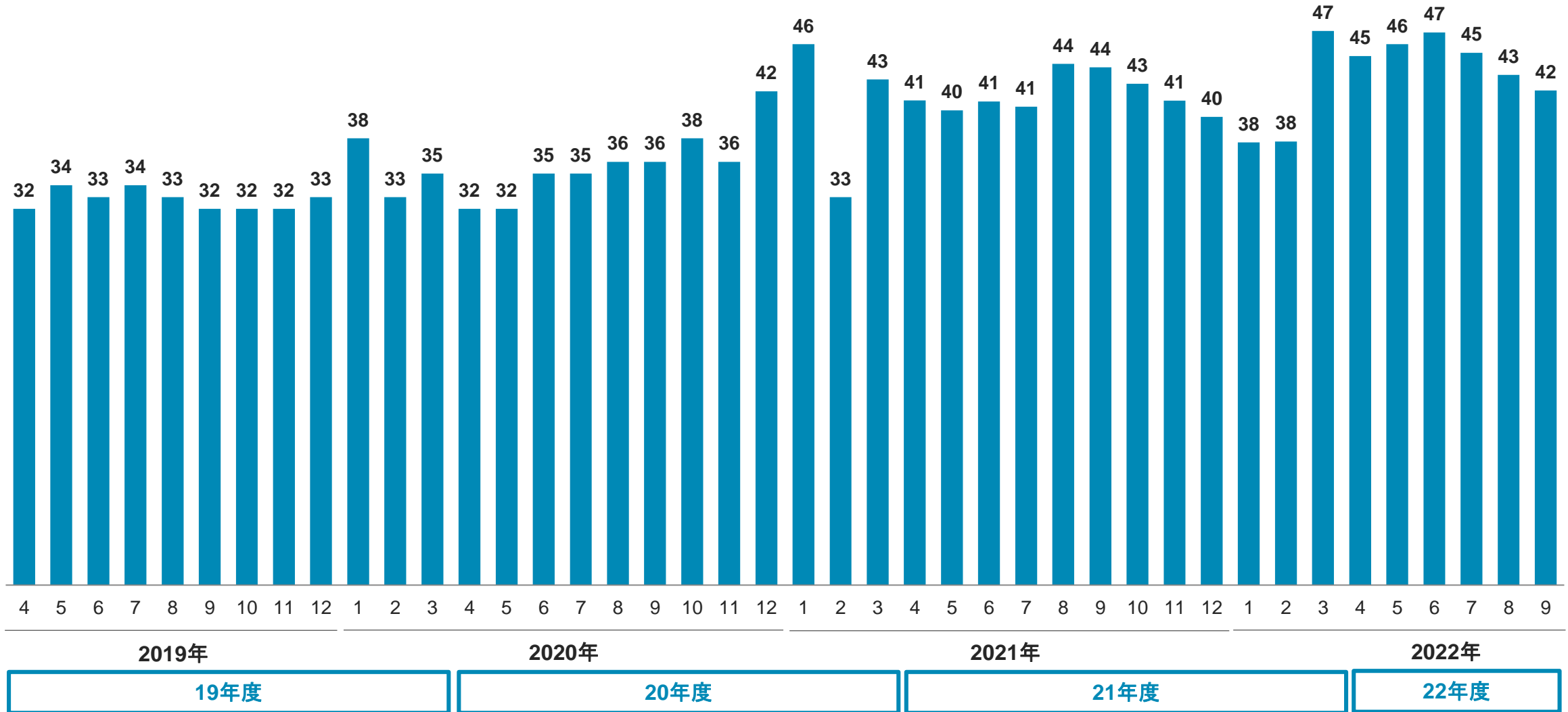
UATH 月次販売量推移

(単位：千t)



TAA 月次販売量推移

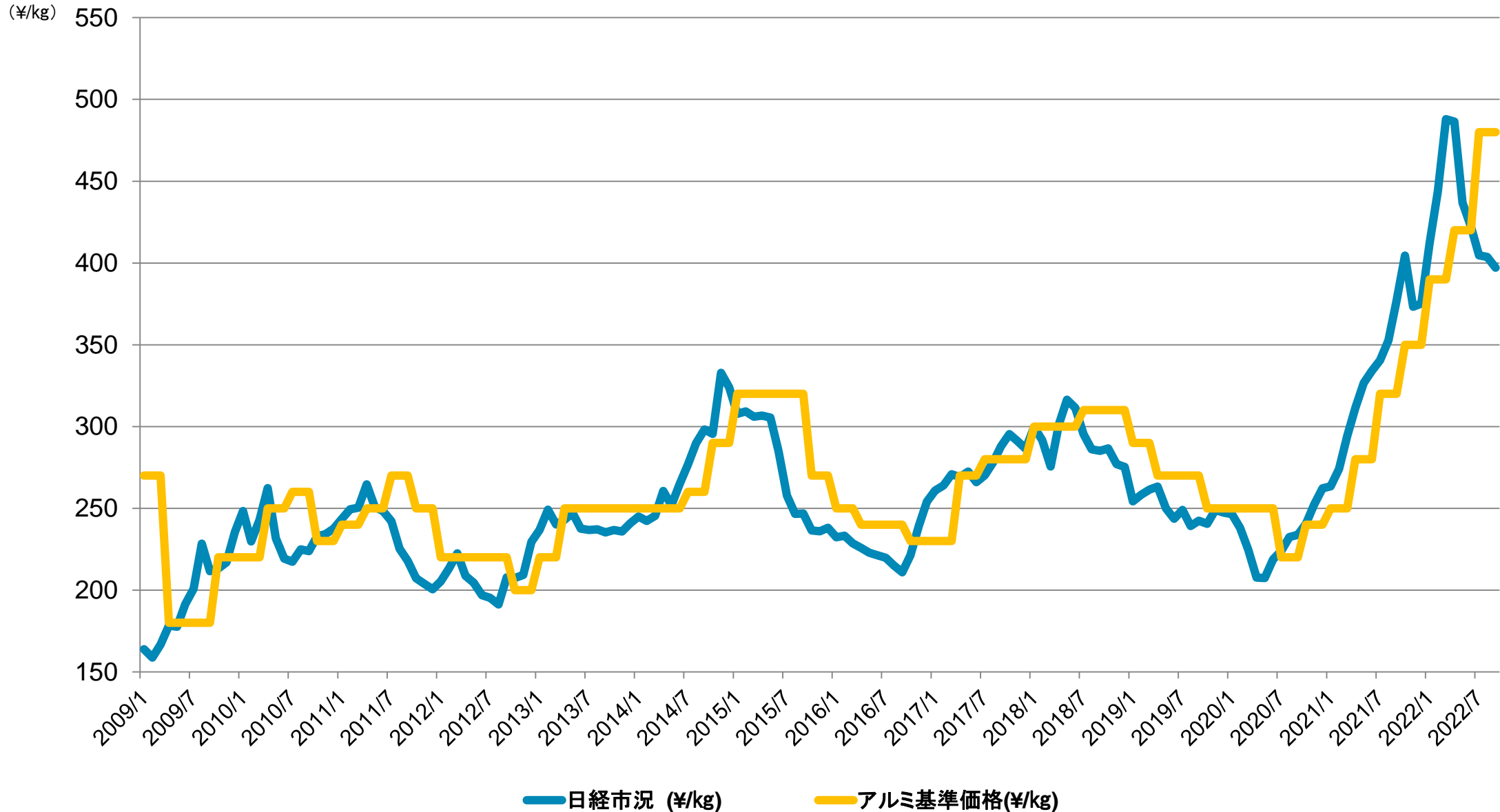
(単位：千t)



燃料単価推移



アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



棚卸資産影響

アルミ圧延事業における棚卸資産影響

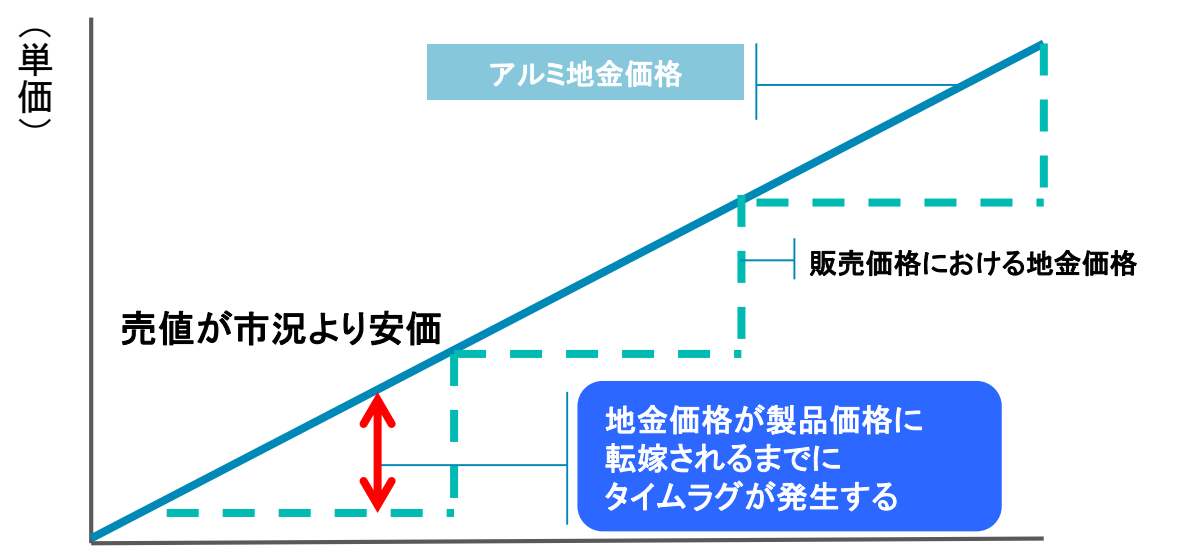
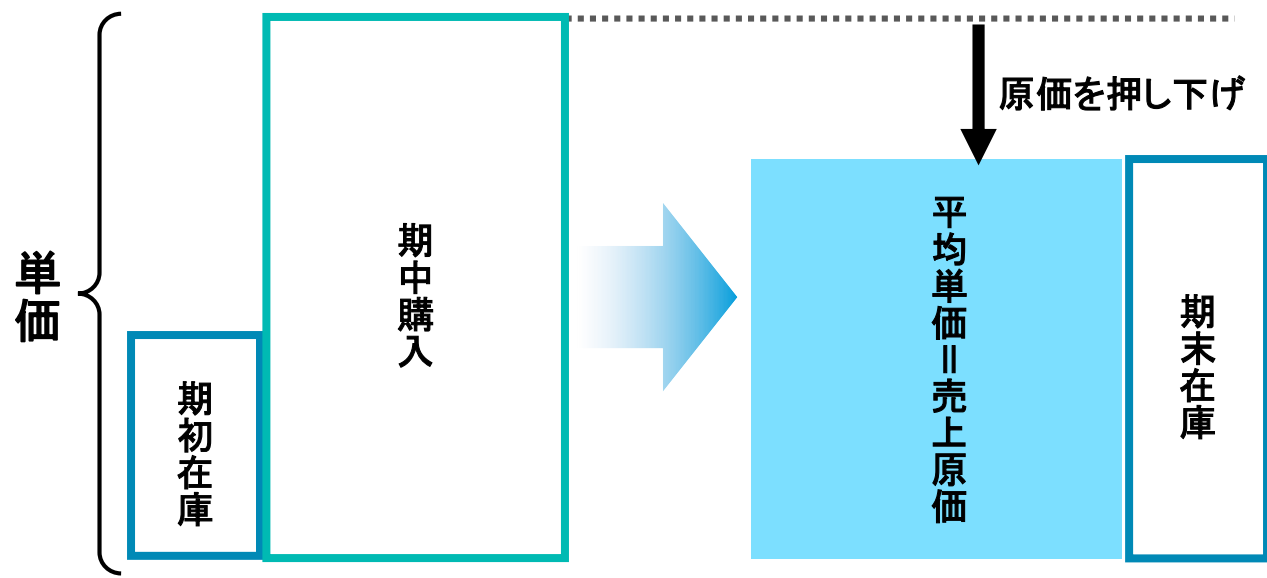
- ① 平均法による材料費計算
期首在庫と期中購入アルミ地金の加重平均で、材料費を計算(期首在庫が影響)
- ② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差

①+ ②= 棚卸資産影響

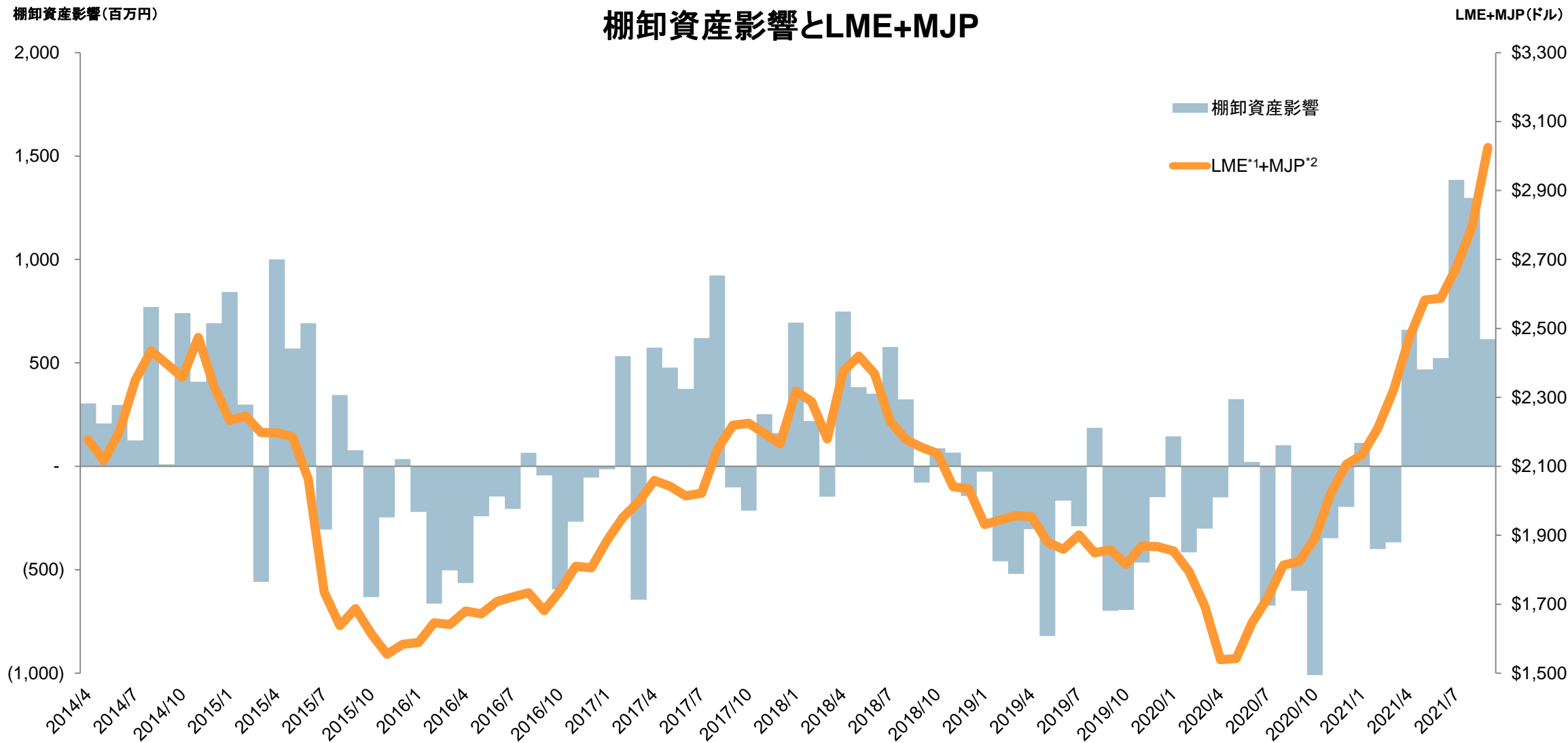
【2021年度:アルミ地金価格上昇】

① 平均法による材料費計算

② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差



棚卸資産影響と地金価格相場の関係性



*1 LME ロンドン金属取引所(London Metal Exchange)に上場しているコモディティ
 *2 MJP 対日アルミ新地金プレミアム

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部

web-contact-ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

(東証プライム 証券コード : 5741)



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

アンケートのお願い

本日の説明会について、アンケートへのご協力をお願い申し上げます

皆様への情報提供など、今後のIR活動を従前に増して充実いたしたく、ご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです



ご登録いただく個人情報含む全ての情報は、本アンケートの上記目的以外には使用いたしません